



時 栃 報 幼

題字／栃木県知事 福田富一氏

第 130 号

平成29年9月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／伊沢 信恭 ●発行人／石嶋 勇

■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



第64回

栃木県幼稚園
教育研究大会

平成二十九年七月二十七日から二十八日、栃木県総合文化センターと宇都宮市内各会場において、教育研究大会が開催された。



今年の大会テーマは「人生のスタートにこそ良質な教育を」乳幼児期の育ちを支える保育者であり続けるために、県内の千三百名を超える先生方が集まった。

主催者挨拶

栃幼連理事長 石嶋 勇

「子ども・子育て支援新制度」がスタートして3年目を迎えました。

まだ先の見えない複雑な制度に不安な気持ちは払拭できていませんが、栃木県及び市町の行政担当者の丁寧な指導の下、問題解決に取り組んでおります。私学助成を受ける園・新制度に移行した園、全てに国として平等に公費を給付いただき人間形成

に最も重要な幼児教育保育に力を注いでいたきたいと要望します。また幼児教育の無償化実現に向けて要望活動を展開してまいりますので、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

来賓祝辞

ご来賓の栃木県知事 福田富一様、栃木県議会議員 小林幹夫様、宇都宮市長 佐藤栄一様から祝辞をいただいた。

表彰

「栃幼連幼稚園教育研究功労者」(敬称略)

小野塚 聡

(認定)こども園おもちゃのまち幼稚園

「栃幼連 永年勤続表彰」

五十年表彰一名、

四十年表彰六名、

三十年表彰十一

名、二十年表彰

二十四名、十年

表彰八十四名



講演会

「教育要領の改訂と今後の幼児教育を考える」

講師 聖徳大学教授

小田 豊先生



平成二十九年三月三十一日、幼稚園教育要領、幼稚園教育要領・保育要領が同時に改訂になったこともあり、今回の全体会に、ふさわしい内容であった。

初めに、何に注目すべきなのか。「変わったところ、変わらなかった所は何か?」その変わらなかった所こそが大事であり、根本にあるものは繋がっている」と話された。特に、幼児期の終わりまでに育ってほしい十の姿を例に挙げ、姿は一つでなく三十人いれば三十のカリキラムがある様に、十の姿は到達目標ではなく、あくまでも方向目標であることは、改訂になっても変わらない。そして環境の中での学びの大切さを特に強調されていた。

この講演で、新教育要領の施行に向け、そのねらいと方向性を十分に理解し、保育者としての専門性を高めて行く必要性を再確認した。限られた時間での講演であり、まだまだ話し足りない様子ではあったが、内容が凝縮された講演であった。

公演会

「つながりあそび・うた・このゆびとまれ」

出演 つながりあそび・うた研究所

研究主任 町田浩志氏

緞帳が上がり、法得幼稚園の先生方による色鮮やかな作品が会場の雰囲気を一気に盛り上げてくれた。



そんな中、町田氏の公演はドレミの歌で始まり、見る見るうちにその歌と話術の中に会場全体が引き込まれていった。時には歌に合わせ隣の人と手をつなぎ、グループになって参加者同士が交流を楽しんだ。

一番伝えたいのは、「安心」。安心があるからこそ遊ぶことができ、心も身体も許しあえる関係ができ、一緒に楽しむことができる。そして、「自分自身が生き生きとしなければ、子どもたちもイキイキしない!」と、いつの間にか町田氏が保育者に、参加者が子どもたちになっちゃったような時間が、あっという間に過ぎた。特に、町田氏オリジナルの「ぼくらばげんき」を、歌と手話を交えてのフルコーラスは、会場中が一体となり歌声がひとつになった。

最後に、「保育者も決して一人では悩むことはない、仲間がいつもそばにいてくれるからがんばれる」。そんな人と人とのつながりを大切に想うメッセージを込めた歌で締めくくった。



御 礼

県大会当日、皆様より募りました「平成23年東日本大震災」の義援金にご協力をいただきましたこと、心より感謝もうしあげます。

総額 96,047円

子どもを理解するとは(73名)

助言者 市川 舞(宇都宮共和大学・専任講師)
コーディネーター 田名網優子(明星幼稚園・教諭)



参加者の声

子どもをより理解するためには園全体のチームワークや情報交換が必要である。実践したい。

3分科会

保育の質の向上のための幼児理解(79名)

(新 教育要領「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を考える)

助言者 加藤 篤彦(武蔵野東第一・第二幼稚園・園長)
コーディネーター 大嶋 裕(今市中央幼稚園・副園長)



参加者の声

- ・保育と10の姿の関連
- ・主体的な遊び
- ・保育者の係わり方

4分科会

保育者が支える幼児期の協同的な学びの芽(45名)

助言者 日吉佳代子(宇都宮共和大学・教授)
コーディネーター 加藤みどり(真岡さくら幼稚園・園長)



参加者の声

協同性を大切にするためのヒント、教師の援助の手がかりを学ぶことができました。日々の、保育の中で教師が意識をもち子どもの姿を捉え、援助できるよう努力したい。

5分科会

特別支援教育(気になる幼児の理解と支援)(65名)

助言者 上原 芳枝(NPO法人リソースセンターone・臨床発達心理士)
コーディネーター 安藤 紀子(聖ヨゼフ幼稚園・園長)



参加者の声

発達障害児の内側をのぞき見たような気がします。独りよがりにならず、その子が他者に対して信頼を持って歩んでいけるようにする事が大切なのだ学びました。

6分科会

特別支援教育 ～保護者との関わりを中心に～(64名)

助言者 佐藤 秋子(國學院大學栃木短期大学・准教授)
コーディネーター 栗田 英子(認定こども園黒羽幼稚園・園長)



参加者の声

一言で“支援”といっても、子ども、保護者、担任と様々な方面から捉えてみると手立ての方法や自分の役割の重要性に気付かされた。

7分科会

第64回

栃木県幼稚園教育研究大会 2日目

栃木県内の半数以上が認定こども園に移行したことに伴い、乳児に関する研修の重要性が年々増しつつある。その様な保育を取り巻く環境の中、今年も18の分科会に分かれて研修にあたった。

各分科会の話題提起者と会場は下記のとおり。

分科会	話題提起者	会場
1		作新学院幼稚園
2	新村 里織(認定こども園おおひらふじ幼稚園・保育教諭) 七波(認定こども園大平みなみ幼稚園・保育教諭)	コンセーレ
3	森田 敦子(旗川幼稚園・教諭) 山口 明美(認定こども園こぼと・指導保育教諭)	二荒山会館
4		県総合文化センター
5	鈴木 裕理(認定こども園真岡ひかり幼稚園・教務主任) 佐藤 未歩(明丘東幼稚園・教諭)	県総合文化センター
6		ニューみくら
7	菊地ルリ子(認定こども園マロニエ幼稚園・副園長) 櫻岡 まや(聖家幼稚園・教諭)	ニューみくら
8		県総合文化センター
9		ホテルニューイタヤ
10	森 円花(認定こども園愛泉幼稚園・保育教諭) 茂呂貴代美(法得幼稚園・教諭)	県総合文化センター
11	石戸奈緒美(みふみ認定こども園・副園長) 林 佳美(鹿沼みどり幼稚園・教諭)	とちぎ青少年センター
12	長谷部せり(宇都宮大学教育学部附属幼稚園・研究主任) 高久香保里(マリア幼稚園・学年主任)	ホテルニューイタヤ
13	高橋 雄貴(認定こども園あかみ幼稚園・保育教諭) 郡司 美紀(認定こども園すみれ幼稚園・主幹教諭)	県総合文化センター
14	山川 誠子(陽南幼稚園・教諭) 永橋 恭子(さつき幼稚園・副園長)	県総合文化センター
15	山本 有希(聖母幼稚園・副主任・教諭) 半田麻希子(鹿沼ひかり幼稚園・教諭)	二荒山会館
16	永田 文子(さくら認定こども園さくら幼稚園・園長)	さくら認定こども園 さくら幼稚園
17		二荒山会館
18		栃木県総合教育センター

乳幼児の健康・安全を守る保育(75名)

助言者 吉原 重美(獨協医科大学小児科・主任教授)
大畠 秀子(作新学院幼稚園小学校中等部・養護教諭)
コーディネーター 桑子 佳子(矢場川幼稚園・園長)



参加者の声

学んだことをもとに、冷静に対応できるよう園内研修でくり返し学んでいきたい。

1分科会

音楽に親しみ豊かな感性を養う(81名)

助言者 朝日 公哉(玉川大学・准教授)
コーディネーター 大久保智子(認定こども園やすづか幼稚園・副園長)



参加者の声

楽しかった。感動する時間と学び多い研修で、本当に良かった。また参加したい。

2分科会



地域の中で育つ子ども ～ 地域の人材を活用する ～(27名)

助言者 柿沼平太郎(認定こども園こどもむら・理事長)
コーディネーター 岡本 純世(認定こども園すみれ幼稚園・園長)



参加者の声

自園を見つめ直し、まずは身近な保護者の方と対話し、何が出来るのかを考え、チャレンジしてみようと思った。自園の保護者、職員の意識から刺激してみたい。

13分科会

保護者とのコミュニケーション(55名)

助言者 小林 順子(国際医療福祉大学クリニック言語聴覚センター臨床心理士)
コーディネーター 今井 政範(認定こども園さくらが丘・理事長)



参加者の声

保護者に子どもの様子を伝える時は、自分自身が子どもとどう関わったのかも一緒に伝える事が大切だと学んだ。

14分科会

地域における子育て支援を考える(21名)

助言者 牧野カツコ(宇都宮共和大学 子ども生活学部・特任教授)
コーディネーター 横山 美樹(鹿沼幼稚園・主任)



参加者の声

他園の未就園児親子教室の情報を参考に自園での活動を考えていきたい。

15分科会

【公開保育】

乳児期からの保育・教育の一貫性と多様な保育時間への対応等生活の一体性(45名)

助言者 増田まゆみ(東京家政大学・教授)
コーディネーター 中山 昌樹(認定こども園あかみ幼稚園・理事長)



参加者の声

「今日はこれをしましょう!」というばかりでなく、子どもそれぞれが「これをやりたい!」という気持ちを大切に保育をしていくことの大切さを実感しました。

16分科会

免許状更新講習(59名)

講師 小林 研介(呑竜幼稚園・園長)



17分科会

新規採用幼稚園教諭研修(263名)

講話：県総務課人権教育室指導主事・幼児教育センター指導主事

演習：後藤有里子(マリア幼稚園) 磯川友美子(陽南第二幼稚園)
木曾小百合(認定こども園たから幼稚園) 大友 里奈(認定こども園東光寺幼稚園)
齋川喜代美(認定こども園育成館幼稚園) 大出 晴美(認定こども園アルス幼稚園)
関 典子(静林幼稚園) 岡田 幾子(鹿沼みどり幼稚園)
沼尾 広美(聖アントニオ幼稚園) 野口 幸緒(認定こども園きつれ川幼稚園)
渡邊きよみ(第二ひかり幼稚園)

(詳細はP.7)

18分科会

心と身体を育てる遊び(101名)

助言者 白旗 和也(日本体育大学・教授)
コーディネーター 斎藤 佳子(認定こども園しずでら幼稚園・園長)



参加者の声

褒めることがやはり重要だという事を改めて感じた。子どもが運動の楽しさを知るのも教師次第。まず楽しく教師が過ごしていきたいと思います。

8分科会

設置者・園長・リーダー向け講座(43名)

～新要領における「全体的な計画」と「カリキュラム・マネジメント」の理解～

助言者 津金美智子(名古屋学芸大学・教授)
コーディネーター 山崎 英明(釜井台幼稚園・副園長)



参加者の声

自園の保育・教育課程を見直すきっかけとなった。保育者全員で共通理解することの大切さを学んだ。

9分科会

子どもとともに作り出す環境構成(53名)

助言者 桂木 奈巳(宇都宮共和大学・准教授)
コーディネーター 山中真由美(認定おおよこども園・副園長)



参加者の声

他園の先生方の事例や環境の写真について意見交換をし遊びの環境だけでなく人的環境・生活環境など、子どもたちの回りの環境作りが大切であると感じた。

10分科会

主体的な遊びとは?(60名)

助言者 岩田 恵子(玉川大学・教授)
コーディネーター 太田 千晴(中鶴田幼稚園・園長)



参加者の声

子どもの姿を見て子どものやりたい!やってみよう!気持ちを大切に、遊びを发展させていけるように取り組んでいきたい。

11分科会

非認知的な能力を育む(86名)

助言者 堀越 紀香(国立教育政策研究所・総括研究官)
コーディネーター 五十嵐市郎(宇都宮大学教育学部附属幼稚園・副園長)



参加者の声

自らの保育に立ち返り日々の保育(関わり方、環境の構成、援助等)を反省、これからの保育に生かしていきたい。

12分科会



研修会だより

設置者・園長研修会

【期日】 平成二十九年六月二十一日
【会場】 二荒山会館（鶴の間）
【参加】 百九名

【研修①】 内容「幼児の安全対策について」

講師 公益社団法人栃木県防犯協会

栃木県警察本部生活安全企画課 専務理事 永嶋 均氏

栃木県警察本部交通安全企画課 課長補佐 渡邊 功氏

【研修②】 内容「障害のある幼児の支援情報の引継ぎについて」

講師 栃木県教育委員会事務局 特別支援教育室 副主幹 矢野 勝昭氏

【研修③】 内容「行政説明」

講師 保健福祉部 係長 斉藤 正芳氏

保健福祉部 主査 稲見 啓氏

保健福祉部 こども政策課

保健福祉部 こども政策課

保健福祉部 こども政策課

保健福祉部 こども政策課

保健福祉部 こども政策課

保健福祉部 こども政策課

保健福祉部 こども政策課

保健福祉部 こども政策課

保健福祉部 こども政策課

保健福祉部 こども政策課

保健福祉部 こども政策課

保健福祉部 こども政策課

【研修④】 内容「施設型給付について」

講師 平成二十九年年度内閣府予算案の主要施策に基づいた「保育士等の処遇改善について」の仕組みや幼稚園教諭と比較をしたイメージをわかりやすく解説した。

③幼稚園教員人材確保支援について

文科省より私学助成の幼稚園教員人材確保支援策を検討しているという情報が入ってきている。

それについての概要は処遇改善をした場合、その半額以内を国、県で補助をする方向である。

一、春闘、人事院勧告などの通常のベースアップに伴う定期昇給は対象外と見える部分の処遇改善の補助

二、専任の幼稚園教諭のみ処遇改善にかかる経費の半分は自己負担

三、国からの情報も不明確で、県の対応も苦慮しているところである。

他県の情報を集めながら検討していく。

【研修⑤】 内容「青年部研修会」

【期日】 平成二十九年六月二十三日（金）

【会場】 ホテルニューイタヤ 二二二名

【参加】 二二二名

【内容】 「発達障害が児への理解と保護者への伝え方」

講師 立石 美津子氏

障がい児当事者・講演家

障がい児当事者の理解のために、知識・基礎知識・保育者の意識を中心に、疑似体験を通して研修が行われた。社会全体が今までよりも理解や支援に向かっ

ているが、実際の現場において周りの人々や、本人が障害を見落としてしまっている場合、今後の人生において大きな問題になってしま

う。そこで教育者・保育者が正しい知識や意

識を習得することが、とても重要である。気

が散りやすい環境で保育をしていないか、わ

かりにくい指示を出していないか、平均値を

押し付けて他の子と比較していないか、等の

対応が挙げられるが、これらの対応は健常児

に對しても同じであり、「障害児教育は教育

の基本」である。

発達障害の保護者は精神的に追い込まれて

いる状態である。子どもの幸せを第一に考え

時には保護者から憎まれ役になることも覚悟

【研修⑥】 内容「平成二十九年年度公開研究会」

【期日】 平成二十九年六月二十四日（土）

【会場】 宇都宮大学教育学部附属幼稚園

【参加】 一百一十一名

【内容】 実施される「新幼稚園教育要領」では、

【幼児期の終わりまで

に育ってほしい姿」を明

確化することが改訂の重要

項目となっている。また留

意項目として、幼児が「次

の活動への期待や意欲を持

てるよう工夫すること」な

ども新設される。

そのことを踏まえ、「よく

あそび伸びる子を育むため

に」幼児の「もつ」という

い」に着目して」という

主題を掲げ、公開研究会が

開催された。

実際保育では学年ごとの指導計画や週案、

日案に沿った遊びを通して興味や意欲を引き

出す環境設定や、関わりを感じることができ

た。

長谷部せり先生の研究発表では、研究会の

テーマである幼児の「もつとやりたい」を探

ることは、近年、注目を集めている非認知的

な能力の育みに繋がることを導き出してい

る。

研究発表終了後には、千葉大学教育学部准

教授、砂上史子先生による講演会が行われた。

砂上先生は、幼稚園教育要領・保育所保育指

針等の改訂に触れ幼児期の非認知能力育成の

重要性を述べられた。

昨今、乳幼児期の非認知能力育成が重要で

あるという研究結果が多く報告されている

が、今回の研究会は、それを高めるための現

場における準備や子どもたちとの関わり方を

学んだ。

【研修⑦】 内容「〇・一・二歳児研修」

【期日】 平成二十九年七月十三日（木）

【参加】 百二十九名

【内容】 「〇・一・二歳の発達過程と援助の

ポイント」

講師 出張開業助産院赤ちゃん相談室院長

藤川 智子氏

【はじめに】

・本日の講演の流れと現在の特殊出生率の動き

◎本題として

一、〇・一・二歳児の発達・発達

二、愛着形成について

三、子どもの認知力や表現力

四、現代の養育者（母親）の背景

五、ママたちからの相談内容

六、子どもとの接し方

養育者への伝え方

七、病気の早期発見

◎終わりにあたっての参加者へのメッセージ

※〇・一・二歳児の保育で大切な事！

「やがては大人になる子どもたちの心を育

てていきましょう」

「母親の自尊感情を認めよう」

【今日の講師はよ

り母親赤ちゃんに

寄り添ってきた方

という事で、これ

までの研修の内容とはひ

と味もふた味も違った興

味深いものだった。また、

お話そのものは資料に基

づく物ではあるものの、

たびたび先生ご本人が、

生まれたばかりの赤ちゃ

んや母親との間に経験した様々なエピソード

を交えての事で、参加者も新たな気づきと

なる事が多く、ひと言も聞きもさうじと、真

剣にかつ和やかに研修を行う事ができた。

【研修⑧】 内容「〇・一・二歳児研修」

【期日】 平成二十九年七月十三日（木）

【参加】 百二十九名

【内容】 「〇・一・二歳の発達過程と援助の

ポイント」

講師 出張開業助産院赤ちゃん相談室院長

藤川 智子氏

【はじめに】

・本日の講演の流れと現在の特殊出生率の動き

◎本題として

一、〇・一・二歳児の発達・発達

二、愛着形成について

三、子どもの認知力や表現力

四、現代の養育者（母親）の背景

ママたちからの相談内容

五、子どもとの接し方

六、養育者への伝え方

七、病気の早期発見

◎終わりにあたっての参加者へのメッセージ

※〇・一・二歳児の保育で大切な事！

「やがては大人になる子どもたちの心を育

てていきましょう」

「母親の自尊感情を認めよう」

【今日の講師はよ

り母親赤ちゃんに

寄り添ってきた方

という事で、これ

までの研修の内容とはひ

と味もふた味も違った興

味深いものだった。また、

お話そのものは資料に基

づく物ではあるものの、

たびたび先生ご本人が、

生まれたばかりの赤ちゃ

んや母親との間に経験した様々なエピソード

を交えての事で、参加者も新たな気づきと

なる事が多く、ひと言も聞きもさうじと、真

剣にかつ和やかに研修を行う事ができた。

【研修⑨】 内容「〇・一・二歳児研修」

【期日】 平成二十九年七月十三日（木）

【参加】 百二十九名

【内容】 「〇・一・二歳の発達過程と援助の

ポイント」

講師 出張開業助産院赤ちゃん相談室院長

藤川 智子氏

【はじめに】

・本日の講演の流れと現在の特殊出生率の動き

◎本題として

一、〇・一・二歳児の発達・発達

二、愛着形成について

三、子どもの認知力や表現力

四、現代の養育者（母親）の背景

五、ママたちからの相談内容

六、子どもとの接し方

七、養育者への伝え方

八、病気の早期発見

◎終わりにあたっての参加者へのメッセージ

※〇・一・二歳児の保育で大切な事！

「やがては大人になる子どもたちの心を育

てていきましょう」

「母親の自尊感情を認めよう」

【今日の講師はよ

り母親赤ちゃんに

寄り添ってきた方

という事で、これ

までの研修の内容とはひ

と味もふた味も違った興

味深いものだった。また、

お話そのものは資料に基

づく物ではあるものの、

たびたび先生ご本人が、

生まれたばかりの赤ちゃ

んや母親との間に経験した様々なエピソード

を交えての事で、参加者も新たな気づきと

なる事が多く、ひと言も聞きもさうじと、真

剣にかつ和やかに研修を行う事ができた。

【研修⑩】 内容「〇・一・二歳児研修」

【期日】 平成二十九年七月十三日（木）

【参加】 百二十九名

【内容】 「〇・一・二歳の発達過程と援助の

ポイント」

講師 出張開業助産院赤ちゃん相談室院長

藤川 智子氏

【はじめに】

・本日の講演の流れと現在の特殊出生率の動き

◎本題として

一、〇・一・二歳児の発達・発達

二、愛着形成について

三、子どもの認知力や表現力

四、現代の養育者（母親）の背景

五、ママたちからの相談内容

六、子どもとの接し方

七、養育者への伝え方

八、病気の早期発見

◎終わりにあたっての参加者へのメッセージ

※〇・一・二歳児の保育で大切な事！

「やがては大人になる子どもたちの心を育

てていきましょう」

「母親の自尊感情を認めよう」

【今日の講師はよ

り母親赤ちゃんに

寄り添ってきた方

という事で、これ

までの研修の内容とはひ

と味もふた味も違った興

味深いものだった。また、

お話そのものは資料に基

づく物ではあるものの、

たびたび先生ご本人が、

生まれたばかりの赤ちゃ

んや母親との間に経験した様々なエピソード

を交えての事で、参加者も新たな気づきと

なる事が多く、ひと言も聞きもさうじと、真

剣にかつ和やかに研修を行う事ができた。

【研修⑪】 内容「〇・一・二歳児研修」

【期日】 平成二十九年七月十三日（木）

【参加】 百二十九名

【内容】 「〇・一・二歳の発達過程と援助の

ポイント」

講師 出張開業助産院赤ちゃん相談室院長

藤川 智子氏

【はじめに】

・本日の講演の流れと現在の特殊出生率の動き

◎本題として

一、〇・一・二歳児の発達・発達

二、愛着形成について

三、子どもの認知力や表現力

四、現代の養育者（母親）の背景

五、ママたちからの相談内容

六、子どもとの接し方

七、養育者への伝え方

八、病気の早期発見

◎終わりにあたっての参加者へのメッセージ

講師

判にも大きな影響を及ぼしてしまふ。プロドライバーの心構えとして①安全な送迎に向けての心の準備②どんな事態に対しても③目的を必ず達成するという意気込みをしつかりと持ち、運転業務に取り組む。といった事が求められる。その中で保護者からの安心安全評価が生まれ、園への信頼に繋がる。運転手に求められる責任は重く、プロドライバーとしての誇りと自覚を持ち、安全への注意力と配慮をさらに高めることが大切である。



た。

二
日
目
は、
十
三
の

台風の接近で
本が心配され

A woman with short dark hair, wearing a white short-sleeved shirt and dark pants, stands in front of a whiteboard. She is looking towards the camera. The whiteboard behind her is mostly blank, with some faint writing visible at the top. The background is a wooden wall.

係各位に感謝したい。



自然体馬③積極的に

トレーニングを行った

二日目は、まず全体

びを深めた。新人で

よう話をした。



夕食後は、任意活動に希望で参加し、

三日目は、今まで活動以外の時間を有

ていくことで交流や話し合えた進み、協

ちを思い返す時間にも

「楽しい」という



る。

になっただろう。





就職説明会 参加学生は400名を割る

県内の私立幼稚園や認定こども園の先生などを目指す学生らに、その魅力やそれぞれの園の特色など、参加した学生に直接説明できる就職説明会が、七月二十三日（日）に宇都宮のマロニエプラザで開催された。

説明会の参加スタイルは、学生が説明を希望する園のブースに着席するスタイル。説明を希望された園は、私立幼稚園や認定こども園で働く事の素晴らしいさをアピールするとともに、それぞれの園の採用条件や保育内容、さらには行事の持ち方など、自園の魅力をパンフレットなどの資料をもとに、おもしろい説明をした。

参加した学生数は、四百名を割り三百九十六名。前年度と比較しては、五十二名減となったが、学生らは各園のブースに一名から三名ほどが座り、各園の説明に熱心に耳を傾けた。

また今回、広報委員会では参加学生の就職に関する声を各園にお届けするために、参加前と後での就職希望先の変化や、就職希望先を決めるにあたって重要視すること等を聞き取る簡単なアンケートを実施したので、参考としてご覧いただきたい。

現場での聞き取りなどから、ある学生は、「今までホームページを中心に情報を得て

いたが、直接、話が聞けたことにより、疑問や不安に思っていたようなことが、少し解消できたように思っています」と話していたほか、「他園や、他地域と比較ができたことにより自分が目指したい保育や、この園に就職したいと希望する園を見つけることができた」という声や、「就職に対する意欲が増した」という声が聞けたのは印象的。

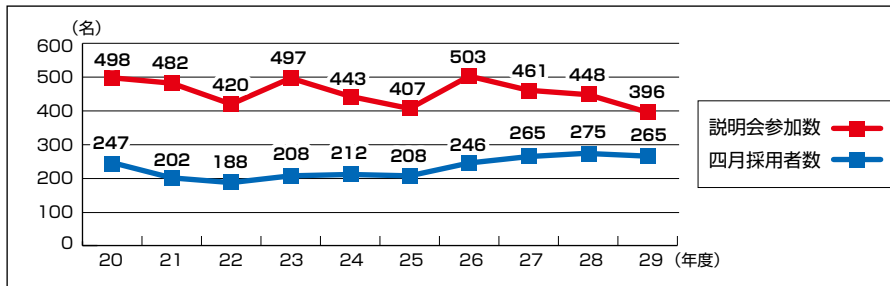
各園のブースの中には、現場の教職員が直接、学生らに説明する園もいくつか見られ、学生らは、より現場に近い具体的な説明と、より年齢が近い分、現場の教職員らに親近感を覚えた様子であった。しかしその一方で、「想像以上に園長先生方がとても明るく気さくで驚いた」というような声や、「各園の丁寧な説明に感謝の気持ちでいっぱいだ」というような声も多くあった。

学生らはポイントを絞って面談したのか、開始から約一時間三十分後には、半数以上と思われる学生が会場から姿を消してしまった。そんな中でも、開始から終了間近まで、学生がまめに訪れているような園もあり、学生からも「あと一時間は欲しい」という声も一部あった。

なお、私事で恐縮であるが、この記事を書いた私の園は、説明を希望し着席に至った学生数は、前年の半数以下。原因については、参加人数の減少以上に自園の努力の至らなさと分析したが、さて、皆さまの園ではどうであつたのだろうか？

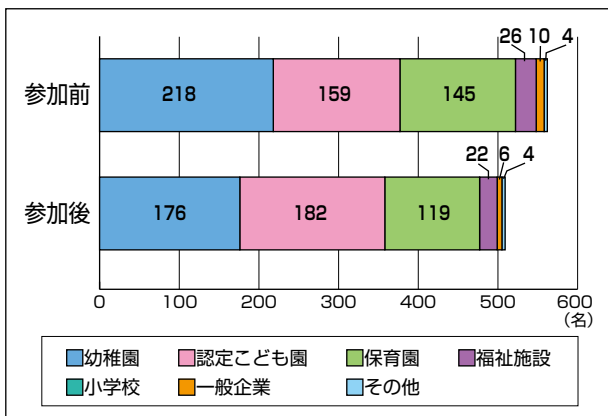
広報委員長 伊沢 信恭

就職説明会参加者数と四月採用者数

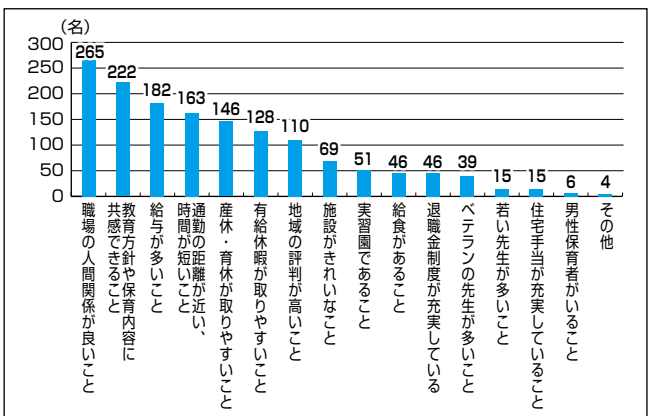


アンケート結果 参加学生数 396名(県内 351名 県外 44名 一般 1名) アンケート回収数 299名 回収率 75.5%

Q1 あなたの就職先について、上位2つを選んでください。本日の就職説明会に参加する前と後でそれぞれお答えください。



Q2 あなたが就職を決めるにあたって特に重視することを表から5つ選んでください。あなたが重視することが表中にない場合は、その内容を記載してください。





こども政策課だより

平成二十九年年度幼稚園財務関係調査及び幼保連携型認定こども園指導監査の実施について

七月から十二月までの間、標記調査等を幼稚園・幼保連携型認定こども園を対象に実施しています。調査内容は、次のとおりです。

- ・学校法人の管理運営状況
- ・幼稚園・認定こども園の管理運営状況
- ・会計処理状況等

実施日時等の詳細については、調査対象となる幼稚園・認定こども園設置者宛てに通知しています。調査への御協力をお願いします。

また、今年度調査対象外の幼稚園・認定こども園においても日常業務の再点検を行い、適正な管理運営に努めていただくようお願いします。

なお、点検の結果、園則変更、園地・園舎変更、理事・監事就任届等が未提出の場合には、早急に提出願います。

各種提出書類について

- 幼稚園運営費補助金交付申請書
- ・提出期限 十月中旬(予定)
- ・平成二十九年年度幼稚園運営費補助金(一般補助分)の内定については、十月上旬を予定しています。交付申請書の提出に当たっては、

別途通知する内定通知に基づき提出願います。

- 幼稚園教材費等補助金交付申請書
- ・提出期限 十月中旬(予定)

- 幼稚園運営費補助金及び幼稚園教材費等補助金(特別補助分) 関係書類
- 一 特別支援教育

- 提出書類
- ア 対象園児就園状況調査書

- イ 対象園児担当・指導教職員に関する調査書
- ウ 対象園児である旨の判定調査書

- ・提出期限 十月二十日
- ※ウについては、身障者手帳、特別児童扶養手当証書、療育手帳、専門医の診断書又は、児童相談所等の判定書のいずれが必要となります。

また、学級担任以外の教職員から特別な教育支援を受けている幼児が補助対象園児となりますので、御留意願います。

- 二 子育てランド事業
- 提出書類
- ア 子育てランド事業実施計画書

- イ 各事業における保護者等への案内通知(写)
- ・提出期限 十一月上旬(予定)

- 三 わんぱく保育推進事業
- 提出書類
- ア わんぱく保育推進事業実施計画書

- イ 預かり保育実施記録
- ウ 保護者等への案内通知(写)

- ・提出期限 十一月中旬(予定)
- ※各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上提出願います。

平成二十九年十月～十二月までの事業予定

10月11日	※新教育課程地区説明会
10月12日	※新教育課程地区説明会
10月14日	※新教育課程地区説明会
10月16日	第24回 ビカビカの栃木県
10月17日	全日私幼 設置者園長研修全国大会(天分)
10月18日	※新教育課程地区説明会
10月24日	幼稚園教育振興の集い(黒磯市)
10月25日	資質向上研修
10月26日	※合同研修(幼小)
10月30日	保育セオリー講座
10月31日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修
11月2日	※合同研修(幼小)
11月7日	※幼児期の特別支援教育研修
11月8日	※幼稚園教職5年目研修
11月10日	全日私幼 関東地区代表者協議会(神奈川)
11月16日	設置者・園長研修会
11月16日	※合同研修(幼小)
11月18日	0・1・2歳児研修
11月19日	とちぎ教育振興大会
11月21日	※合同研修(幼小)
11月22日	保育アークニカル講座
11月28日	保育セオリー講座
12月1日	※トップセミナー
12月8日	資質向上研修
12月26日	新規採用幼稚園教諭研修(集合研修)

訃報

- 真岡市 真岡さくら幼稚園 学園長 加藤 光 先生
平成二十九年七月二日 逝去
 - 宇都宮市 岡本幼稚園 前理事長 落合 利雄 先生
平成二十九年八月十六日 逝去
- 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

「今年は猛暑!」と言われてスタートした夏休み。ふたを開けてみれば思いの外暑くならず、それどころか雨が続く毎日。『夏らしくない』気候になんとか寂しさを覚えた方も多かったことと思う。

この「ささしき」という言葉。現社会において失われつつあるものの一つではないだろうか。外遊びをせずにゲームやテレビに夢中になっている子どもたち。まるで子どもらしくない。我が子そっくりのけでスマホを触っている大人たち。大人(親)らしくない。私欲に目がくらみ不正を繰り返す政治家。もったのほかである。

子どもらしさ、大人らしさ、男らしさ、女らしさ、そして先生らしさ。自由、平等、オンリーワンといった言葉に守られ疎かになっているこの言葉こそ、今改めて見直さなければいけない大切なことではないだろうか。

新制度が施行され三年目。県内でも新制度へ移行した園が半数を超えた。しかしながら待機児童問題がまだまだ解決しない一方で、少子化の波は衰えることを知らず、我々幼稚園・認定こども園としては、今後の行く末がなかなか見えない状況である。

そんな今だからこそ、もう一度原点に返って幼児教育の大切さを再確認し、子どもたちのために「幼稚園らしく」「進んでいきたいものである。」

(石川 健太郎)